

⑨日本国特許庁  
公開特許公報

⑩特許出願公開  
昭53—23137

⑪Int. Cl.<sup>2</sup>  
E 06 B 3/20  
E 06 B 1/26

識別記号

⑫日本分類  
89(2) A 211  
89(2) A 11

庁内整理番号  
6922—22  
6922—22

⑬公開 昭和53年(1978)3月3日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭梓 体

門真市大字門真1048番地 松下  
電工株式会社内

⑮特 願 昭51—98064

⑯出 願 人 松下電工株式会社

⑰出 願 昭51(1976)8月14日

門真市大字門真1048番地

⑱発 明 者 浜下郁夫

⑲代 理 人 弁理士 石田長七

明 細 書

1. 発明の名称

梓 体

2. 特許請求の範囲

左、右堅幹部に相対向して横幹部分片が突設された左、右幹半体を各々合成木材にて一体に形成し、横幹部分片を互いに直接又は単位長さの1又は2以上の横材にて接合して成る梓体。

3. 発明の詳細な説明

本発明は左、右堅幹部(1)、(2)に相対向して横幹部分片(3)、(4)が突設された左、右幹半体(5)、(6)を各々合成木材にて一体に形成し、横幹部分片(3)、(4)を互いに直接又は単位長さの1又は2以上の横材(7)にて接合して成る梓体に係り、その目的とするところは梓組みが容易でありまた開口サイズが異なる場合でも部品を共用化して簡単に組立て得る梓体を提供するにある。

従来の梓体は天然木材、集成木材、合板等にて形成された堅幹と横幹を接合して組立てられてい

たので、幹部材の四隅の接合が煩雑となると共に直角精度が低い上に四隅接合部の切欠、中横などの中間接合部の接合用切欠、集番取付用の切欠等を各部材毎に施さなければならぬために加工箇所が多くなり、しかも開口のサイズ毎に専用の長さの部材を用意しなければならぬ欠点があつた。

本発明はかかる従来の欠点を解消せんとするもので、以下添付図により詳述する。左幹半体(5)及び右幹半体(6)はいずれも低発泡ウレタン樹脂、低発泡A B 8樹脂、低発泡ポリ塩化ビニル樹脂等の低発泡合成樹脂にて一体に成形されたもので、第1図のように各々左、右堅幹部(1)、(2)の上下端及び必要に応じて中間部に横幹部分片(3)、(4)が一定長さに揃えて一体に突設され、また必要となすには左、右堅幹部(1)、(2)の一方又は双方に成形時に第2図のような集番取付用凹所(8)を同時に凹設してある。また横材(7)は上記と同様の低発泡合成樹脂にて単位長さに成形されている。上記横幹部分片(3)、(4)の先端には第3図(a)乃至(c)の如く互いに

嵌合し得るジョイント部(9)、10が設けられ、また横材(7)の両端にもこのジョイント部(9)、10に各々嵌合し得るジョイント部11、12が設けられる。

本発明にあつては第4図(a)は横材(7)を用いず横材部分片(3)、(4)を直接連結した例を示すもので、横材部分片(3)、(4)の各々の長さをいま一尺とすれば間口が二尺の枠体ができる。また第4図(b)は横材部分片(3)、(4)間を1本の横材(7)で連結した例を示すもので、横材(7)の長さを一尺とすれば三尺の枠体ができ、また同様に同図(c)の如く2本の横材(7)、(7)を挿入すれば四尺の間口の枠体を得られる。更に扉を設ける場合には左、右縦枠部(1)、(2)の一方又は双方の兼蓄取付用凹所(5)に兼蓄の一片を取付け他片を扉裏面に取付けて片開き又は両開きにすることができ、また扉を枠体内に嵌合する場合は兼蓄取付用凹所(5)を左、右縦枠部(1)、(2)の相対向する内側面の一方又は双方に凹設してもよい。尚、図示実施例は収納型前枠を示すもので、上部に扉を取付け、下部に引出しを取付けるようにしたものである。

本発明にあつては左、右縦枠部に相対向して横材部分片が突設された左、右枠半体を各々合成木材にて一体に形成してあるから、煩雑な四隅の接合が不要となり、四隅接合用の切欠の加工が不要となつて組立てが簡単に行なえと共に成形時に直角精度が正確に出せるために、従来枠組み時に行なつていた煩雑かつ熟練を要した直角出しが不要となり、四隅の直角精度の高い枠体を労なく簡単に得ることが出来るものである。また左、右枠半体は一体に形成されているからその成形時に兼蓄取付用凹所を同時に施しておけると共に上下枠のみならず中横部も一体に成形しておけるので、従来別途に施していた兼蓄取付用凹所、中横取付用切欠等の加工も不要となり、加工性、組立性が一層良好となるものである。しかも左、右枠半体の横材部分片を直接或いは1又は2以上の単位長さの横材にて間接的に接合することにより、設置場所の状況に応じて任意の間口の枠体を得ることができ、また複数種の間口サイズ枠体であつても共通した各部材を用いることができるので、コス

ト面、部材の管理保管面からも好ましいものである。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の分解斜視図、第2図は同上の他の実施例の一部省略斜視図、第3図(a)乃至(c)は同上の接合部を示す一部省略拡大分解斜視図、第4図は同上の作用説明図であつて、(1)は左縦枠部、(2)は右縦枠部、(3)と(4)は横材部分片、(5)は左枠半体、(6)は右枠半体、(7)は横材を示す。

代理人 弁理士 石 田 長 七

